

# (10) 西土佐中学校

学 校 長 黒 岩 惣 一  
校内研究代表者 兼 松 成

## 1. 研究主題

「生き方につながる豊かな学力の保障」  
～確かな基礎学力の定着（言語活動と課題解決学習）～

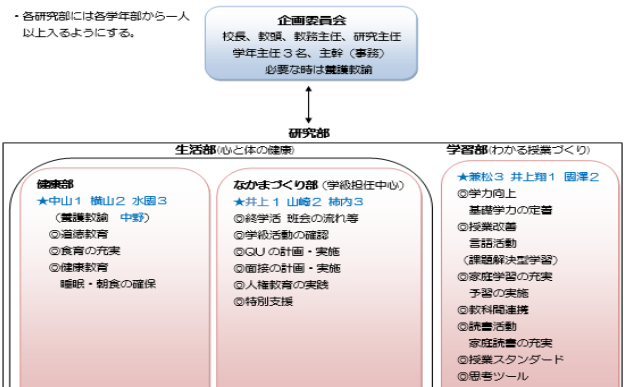
## 2. 主題設定の理由

本校では、教育目標である「心豊かに主体的に生きる生徒の育成」を目指し、また「西中魂」（伝統のあいさつを行う、積極的な行動をとる、何事も全力でやりきる）を実現できるよう研究を続けている。本校の生徒達は素直で明るく、落ち着いた学校生活を送っている。挨拶もよくでき、礼儀正しく、授業態度も大変良い。この地域は山間地ゆえに、本中学校が唯一の中等教育機関になる。地域の大切な生徒達に「生きる力」をつけ、学力を向上させるために、中学校の責任は大きい。そのためサブテーマを「確かな基礎学力の定着（言語活動と課題解決学習）」とし、生徒の成長と教員の更なる指導力の向上をめざして、これまでに引き続きこの研究主題を設定した（6年目）。

## 3. 研究の進め方と方法

・今年度は校長・教頭の案をもとに、校長、教頭、教務主任、研究主任、生徒指導主事、生徒会担当、事務担当の7名で構成される企画委員会で、学校経営の方向を確認しながら校内研究に取り組んでいる。昨年度に引き続き、具体的な活動をする研究部を3つの部会（学習部、健康部、なかまづくり部（学級担任+生徒会））に分け、それぞれ3人の学級担任の意見が反映されるようにしている。研究組織はこの5年間検討を続け、少しずつ形や内容を変えている。この4年間は内容にわずかな違いがあるが、ほぼ同じ構成の組織で研究を続けている。

令和元（2019）年度 校内研究組織



・校内研修全体の年間計画を立て、全体会（職員会、校内研修）、研究部会などを計画的に実施するように日程を計画し、調整、修正しながら校内研修を行った。

令和元年度校内研修年間計画の一部（4月）

\*本年度は四万十市  
一校一役指定研究

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善」「保小中連携」の指定を受けており、学力向上の研究を一層深め、保小中の連携をはかるよう工夫した。

2019年度 校内研修/職員会 計画(案) 190411					原簿として第2課を行事職員会とする。チーム会日課内研の時間に変更する。 (1月2日 18:30現在)	
職員会/校内研全体会	全校研のある全体会	研究部会	学年部会	長期休業中研修日	1 研究部会の研修について は別表を参照	
第1週 4/15 職員会 4/21 全校研 4/22 職員会・校内研	第2週 4/22 職員会・校内研 4/23 学年部会/学級担任	第3週 4/23 職員会・校内研 4/24 職員会・校内研 4/25 職員会・校内研 4/26 職員会・校内研 4/27 職員会・校内研 4/28 職員会・校内研 4/29 職員会・校内研 4/30 職員会・校内研	第4週 5/5 職員会・校内研 5/6 職員会・校内研 5/7 職員会・校内研 5/8 職員会・校内研 5/9 職員会・校内研 5/10 職員会・校内研 5/11 職員会・校内研 5/12 職員会・校内研 5/13 職員会・校内研 5/14 職員会・校内研 5/15 職員会・校内研 5/16 職員会・校内研 5/17 職員会・校内研 5/18 職員会・校内研 5/19 職員会・校内研 5/20 職員会・校内研 5/21 職員会・校内研 5/22 職員会・校内研 5/23 職員会・校内研 5/24 職員会・校内研 5/25 職員会・校内研 5/26 職員会・校内研 5/27 職員会・校内研 5/28 職員会・校内研 5/29 職員会・校内研 5/30 職員会・校内研 5/31 職員会・校内研	第5週 5/28 職員会 5/29 職員会 5/30 職員会 5/31 職員会	前年	行事

## 4. 研究内容及び今年度の取り組み

### (1) 授業研究の推進（チーム会/教科間連携）

- ・教職員を A チーム、B チームの二つのチームに分けて教科間連携の取組を行った。各チーム会を週の時間割の中に位置付け研修を重ねた。
- ・A チームはゴールイメージを次のようにする。  
 <第1段階> 班の学び合いの質を上げる。→根拠を明確にして、自分の意見を班で説明する。  
 →互いの意見に対して具体的なコメント（感想や質問）を返す。  
 <第2段階> 全体の場合における説明力やコメント力を上げる。  
 →根拠を明確にした説明や、具体的なコメントが、全体の場合でもできるようにする。

〈第3段階〉自分の考えを適切に文章化することができる。  
 →根拠を明らかにし、誰にでもわかる文章表現ができるようにする。  
 (学力調査分析に見られる課題の解決につなげる)

- ・Bチームは目標を次ようにする。  
 「主体的・対話的な学びにつながる『個』の支援を工夫する」 具体的には  
 ・「個」に焦点を当てる・それぞれの生徒個人が「意欲的に授業に取り組んでいるか」「効果的にペア学習、グループ学習等の学び合い学習が仕組んでいるか」という点について観察し、授業改善をはかるようにする。



Aチーム (松本教頭)	Bチーム (兼松 英語)
井上忠 (理科) ①	中山 (家庭・特別支援) ①
井上翔 (数学) ①	國澤 (社会) ②
水國 (数学・美術) ③	横山 (音楽・特別支援) ②
山崎 (国語) ②	柿内 (保健体育) ③

(写真は10/8 国語全校研 右はチーム会の構成図)

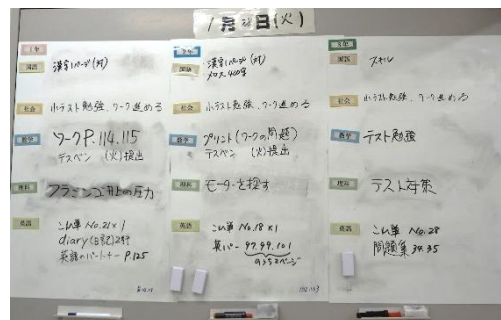
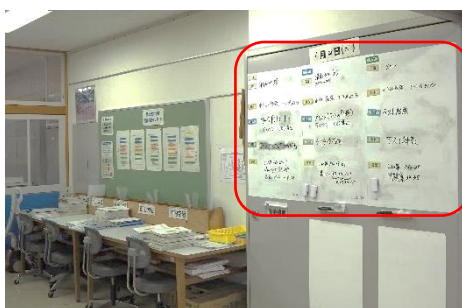
※○数字は学年部

各々のチームが各学期に公開授業や指導案検討などを実施し、授業改善を進めた。  
 全校研修では授業の様子を写真にとり、研究協議でプロジェクターやパソコンの画面に授業の様子を写し、協議の充実を図っている。

## (2) 家庭学習

- ・「自主学習の仕方」「家庭学習の仕方」を前年度3学期に改訂、4月当初に配布、学級指導と各教科で連携して指導する。
- ・「毎日の宿題の見える化」をはかっている。

毎日の宿題教科・学年別一覧表



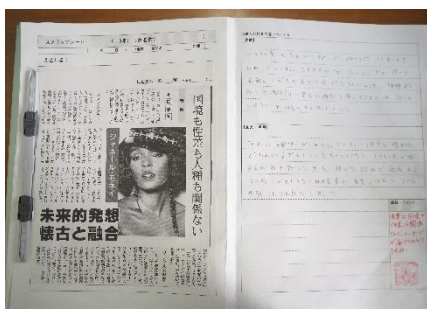
宿題内容の掲示ボードを設置。その日の各学年の宿題を教科別に教員が記入する。

## (3) 保小中連携 (共同実施、小中合同校内研推進委員会、保小中連絡会)

- ・共同実施：校長、教頭、養護教諭、事務 (小・中) が参加。児童／生徒の情報交換、学校行事、連携して取り組む内容などを討議、確認。
- ・小中合同校内研推進委員会：校長、教頭、研究主任 (小・中) が参加。合同研修の事前打ち合わせ。
- ・小中合同研修会  
 第1回 5/29 (水) 中学校の授業を参観、協議 第2回 7/29 (月) キャリア学習研修、実践交流  
 第3回 12/3 (火) 西土佐小研究発表を参観 第4回 1/22 (水) 小学校の授業を参観、まとめ
- ・出前授業 (音楽)
- ・保小中 (高) 連絡会：年3回程度実施。参加者：校長、教頭、養護教諭、保育所長、保育士。学校行事、生活リズム、園児・児童・生徒の様子などを確認。生活点検の実施。

## (4) NIE の取組

スクラップシート



班での発表の様子



全校縦割り班で発表



・昨年度から2年間の指定で高知新聞社と連携してNIEの取組を行っている(二年目)

・視写(1,2学期当初、朝学習で)

・新聞スクラップ(週末課題)→自分記事を伝えよう(週の始めに西中タイムで)

・新聞スクラップの取組では生徒各自が記事のスクラップブックを作り、班/学級(毎週)、縦割班(月1)で発表している。記事の選択(情報収集)→読み取り→要約など準備→発表のサイクルで行っている。

(5) 帯学習(西中タイム:西土佐中学校朝学習の名称)

・「朝読書」8:05~8:15 西中タイム 8:15~8:25

・年間計画を作成。1,2年は5教科、3年生は社/数。

・4~6回の朝学習とテストを1サイクルとする(1/2年)。一週間の最後にテストをする(3年生)。

・国社数理英の5教科と「視写」を基本とする。週明けはNIEの取組で新聞スクラップの発表をする。

・不合格の生徒は翌日以降昼休みに再試験/再々試験を行い、定着度を上げる努力をする。

・1,2学期 学期始め1週間~2週間は国語の「視写」(高知新聞の「小社会ノート」とする)。

令和元年度朝学習・西中タイム年間計画の一部

2019年度(H31) 西土佐中学校 1/2年西中タイム予定(案) (3教科+NIE) 190411		支援員訪問日		テスト	
日	4月	5月	6月	7月	8月
	帯学習	帯学習	A週	集会	B週
1	月	水	土	月	日
2	火	木	日	火	月
3	水	金	月	水	火
4	木	土	火	木	水
5	金	日	水	金	木
6	土	月	木	土	金
7	日	火	金	日	月
8	月	水	土	月	日
9	火	木	日	火	月
10	水	金	月	水	火

(6) 礼節の習得(学校教育目標の共有、「西中魂」の伝承)

・全校集会を礼儀作法の指導(挨拶、声、礼、集団行動など)の中心に位置付け、全体指導の中心の時間に設定し、指導を続けた。また集会の時間や生徒会活動(専門部会、専門部活動)等の時間を作り出すために水曜A週:専門部会、自主学习、B週(自主学习、専門部活動)を設定した。全校集会は現在、生徒会担当教員が指導の中心になり、生徒会執行部が運営している。また無言掃除、作業を徹底している。今年度は集会で「学校教育目標の共有」「西中魂の伝承」を徹底した。

(7) 学習規律の向上、学習態度グランプリ等

・学習規律の維持と向上のために年度当初に「授業評価の確認」を行い生徒からの提言、教員からの提言のすり合わせをして、授業に参加する姿勢の向上をめざしている。また「授業態度グランプリ週間」等の各種グランプリを設定し授業態度など取組の良い学年、個人などを表彰している。  
・生徒会学習部が毎日各学年の授業評価の平均値を終学活の放送で発表している。(一昨年度より)

## 5. 今年度の成果と課題

・授業研究、教科間連携

成果:○各部会で主体的に授業改善に取り組むことができた。

○各チーム会で教科を超えた助言や情報交換があり、授業改善につながっている。

○西部教育事務所の講話が授業改善につながっている。

○県学力調査、授業評価アンケートなどほぼ目標に達している。

課題:▲各チーム会の時間確保ができないときがある。

▲時間割変更や他の研修でなかなかメンバーが揃わない。

▲Aチーム、Bチームでの取り組みの共有がしにくい。

・家庭学習

課題:▲どうしても家庭学習ができない生徒がいる。

・保小中連携

成果:○小中合同研推進委員会を研修前に設定することで、合同研修の見通しを持つことができ、確認しながら進めることができた。

○授業参観などを通して、小学校から中学校へ引き継げることを共通認識することができた。

○共同実施(小・中)を行うことで

・気になる児童生徒の情報交換ができています。

・行事の段取り、内容のすり合わせが容易になっている。

課題:▲こどもの生活リズム、SNSの使用等の課題に対して、保護者をいかに巻き込んでいくか。